

KIRIN

平成27年12月17日

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
運営委員長 須田 春海 様
副運営委員長 中井 八千代 様

キリン株式会社
お客様相談室
室長 坂倉 忠夫

拝復 寒冷の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

再度のご質問をいただき、ありがとうございます。前回の回答がご期待に沿えず心苦しい限りです。

キリンビール社長布施宛に頂戴いたしましたご質問につきまして、社長はじめ社内共有のうえ、キリン株式会社お客様相談室より以下のとおりご返答申し上げます。

ご高承のとおり、OECDガイダンスマニュアルでは、全面的および部分的なEPR（拡大生産者責任）を認め、政策手法も各国政府が任意で選択できるとしており、それぞれの国の実情に合わせて効果的に実施することを求めています。

日本では容器包装リサイクル法によって、分別排出は消費者、回収・選別は市町村、再商品化は容器の製造・利用事業者と、関係各主体の役割が定められています。各主体がそれぞれの役割を果たし連携することにより、市町村の最終処分場の延命や容器包装のリデュース、リサイクルが推進されており、効果があったと評価されています。

容器包装の素材ごとのリサイクル率は、各国の算出方法が異なるため、単純に比較はできないものの、日本のリサイクル率は全面的なEPRを採用しているEU各国に遜色ない、もしくは優位な状況となっており、我が国は高いリサイクル率が実現できていると認識しております。

（別紙資料 農林水産省商品産業環境対策室「ヨーロッパにおける容器包装リサイクル制度の現状」抜粋をご参照下さい。）

私どもでは、容器包装の3RもCSVの取り組み課題のひとつと位置付け、リターナブルびんの軽量化を始めとするリデュースやリターナブルびんシステム維持のリユース、再生PET樹脂100%使用のPETボトルの採用や「CAN to CANリサイクル」の支援など、さまざまなリサイクルに取り組んでおります。

今後も、当社が定めました「環境に配慮した容器包装等設計指針」に則り、容器包装の開発・設計・採用を推進し、資源有効利用・資源循環利用に貢献していく所存でございます。

末筆ではございますが、須田様、中井様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

敬答

	日本	ドイツ	フランス	ベルギー	オランダ
人口(万人)	12,565	8,052	6,582	1,108	1,679
国土面積(km ²)	377,961	357,000	544,000	30,528	41,864
人口密度(人/km ²)	332	230	121	363	401
容器包装に係る分別収集区分	ガラスびん	ガラスびん	ガラスびん	ガラスびん	ガラスびん
	飲料用紙容器	紙/段ボール	紙/段ボール	紙/段ボール	紙/ダンボール
	紙製容器	軽量容器(プラスチック、金属等) (PETはデボジット)	リサイクル可能物(PET・HDPEボト ル、紙、スチール・アルミ等)	容器包装(PET・HDPEボトル、金 属、飲料用紙容器のみ)	容器包装(PET・HDPEボトル、金 属、飲料用紙容器のみ)
	ダンボール	※ソーテイングセンターで分別	※ソーテイングセンターで分別	(PETの一部はデボジット)	(PETの一部はデボジット。2015年 廃止予定。)
	PET			※ソーテイングセンターで分別	※ソーテイングセンターで分別
	プラスチック				
	スチール				
	アルミ				金属
	2012年	2012年	2011年	2013年	2011年
	全体	—	66	81(83.5)	72(80)
リサイクル率 (%) (※括弧内は熱 回収率またはリカ バ率)	ガラスびん:68	ガラスびん:84(84)	ガラスびん:82	ガラスびん:104.1	ガラスびん:83
	飲料用紙容器:44	飲料用紙容器:71(98.8)	飲料用紙容器:41	飲料用紙容器:88	飲料用紙容器:88
	紙製容器:23	紙/ダンボール:81.5(99)	紙/段ボール:66	紙/段ボール:89.1	紙/ダンボール:89
	ダンボール:98	プラスチック:53.9(99.6)	PET・HDPEボトル:45	PET・HDPEボトル:71.2	プラスチック:51
	PET:85	スチール:91	その他プラスチック:0	その他プラスチック:35.3	金属:91
	スチール:91	アルミ:95.6(95.6)	アルミ:92.3(95.8)	アルミ:32	

農林水産省食品産業環境対策室「ヨーロッパにおける容器包装リサイクル制度の現状」からの抜粋